



会派政務調査活動(行政視察)報告書 (総括)

会派名	公明党
会派の代表者名	秩父博樹 
視察(調査)期日	平成30年1月22日～平成30年1月24日
視察(調査)先	高松市役所、丸亀市役所、倉敷美観地区
視察(調査)の目的 (大仙市の現状と 選定理由等)	<p>【高齢者の居場所づくり事業について】(高松市) 少子高齢化が年々進んでいる大仙市において、高齢者の居場所づくりの取り組みは、年に数回開催のサロン(社協)は行われているが、毎週定期的に行われているものではない。高松市のように毎週定期的に行っている自治体の現状を視察し、説明をいただき、今後の大仙市の取り組みの参考としたい。</p> <p>【健康ポイント制度の取組について】(丸亀市) 全国的に高齢化が年々進んでおり、医療・介護に掛かる財政負担が膨らむ傾向にある現状において、市民の寿命と健康寿命の差を縮める必要がある。昨年、秋田県でも「健康寿命日本一!」をめざす取り組みが始まり、市町村単位での取り組みを促す動きもある。既に健康ポイント制度を導入・実施している丸亀市の現状を視察し、説明をいただき、大仙市民の健康増進に資する取り組みの参考としたい。</p> <p>【交流人口の増加に資する環境整備について】(倉敷市) 国が「観光立国日本」をめざし、交流人口の増加、特に海外から日本を訪れる観光客を更に増やそうと取り組んでいる現状において、日本全体としての交流人口は年々増加しているが、大仙市としては、その波に乗り切れていないのが現状。観光者目線に立っての環境整備の更なる推進が求められる。多くの観光客が通年訪れる倉敷美観地区の現状を視察し、大仙市の交流人口増加の取り組みの参考としたい。</p>

視察(調査)の行程	22日・秋田空港～羽田空港～高松空港～高松市役所(13:50～15:30)高松市泊 23日・丸亀市役所(10:00～11:30)～倉敷美観地区(14:20～16:30)岡山市泊 24日・岡山空港～羽田空港～秋田空港
視察(調査)への参加議員名	秩父博樹、挽野利恵
視察(調査)概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の居場所づくり事業について(高松市) ・健康ポイント制度の取組について(丸亀市) ・交流人口の増加に資する環境整備について(倉敷市)
視察(調査)の成果と本市に反映できる事項或いは反映させたい事項について	
<p>そ の 他</p> <p>(会派としての総括的意見、上記成果への今後の取り組み等)</p>	

(様式第3号)

政務活動費にかかる会派政務調査活動(行政視察)報告書 (個別)

参加議員氏名	秩父博樹 
所属会派名	公明党
視察(調査)結果の 所感・意見等	<p>【高齢者の居場所づくり事業について】</p> <p>ここで言う“居場所”とは、おおむね65歳以上の高齢者が気軽に集うことができる建物等のスペースで、介護予防や健康増進、地域のボランティア活動、世代間交流など、様々な地域活動の場のことを差す。</p> <p>事業の目的は、高齢者が心身機能の衰えに伴い閉じこもりがちとなり、社会との接点を無くして孤立することなどを防ぐため、おおむね徒歩圏内に1か所を目安として、高齢者が集う場や、高齢者だけでなく、子どもたちを交えた世代間交流の場など、気軽に集える居場所の開設を進めることで、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続できる地域包括ケアの実現を目指すもの。</p> <p>この事業を始める前は、喜寿を迎えた市民に敬老祝い金として1人当たり1万円を贈呈していたそうだが、この喜寿の祝い金を廃止したことで事業の財源(約4千万円)を生み出していた。</p> <p>平成28年度末には240か所の開設となっていたが、開設数は300か所程度を目標として進めている状況で、市の広報以外に各コミュニティセンター(44か所)にチラシを置き、職員が直接出向いて事業の説明を行い、新規開設を後押ししている状況。</p> <p>実施主体は、自治会が93、趣味の会(カラオケ・卓球・囲碁将棋等)が40、有志の会が33、老人クラブが27、事業所・NPO等が24、個人が17、コミュニティ協議会が6。</p> <p>主な活動内容は、趣味・ゲームが168、カラオケ・合唱が34、介護予防体操が16、健康体操が9、世代間交流が3、おしゃべりが3、その他が7。</p> <p>実施場所は、地域の集会所が103、市有施設(コミュニティセンター・児童館等)が52、事業所・NPO等の施設が34、個人家屋(店舗含む)が32、老人憩いの家等が17、県住集会所が2。</p> <p>助成金交付の主な条件としては、同一場所で3年以上継続して活動を行うこと。一回の活動に高齢者がおおむね10名以上含まれること。活動は1回当たり2時間以上行うこと。体操などの介護予防メニューを毎回の活動の中に取り入れることなど。</p>

助成内容は、運営助成金としてそれぞれ以下のとおり。

居場所 週1回以上2回未満 3万円

居場所 週2回以上3回未満 5万円

居場所 週3回以上 7万円

準居場所 月2回以上週1回未満 2万円

週1回以上2回未満の居場所が142か所で全体の約6割を占めている状況。また、年1回程度すべての居場所に声を掛け実施している「居場所交流会」が大変好評で、横のつながりを深めるいい機会になっているとのこと。

参加者からは、「最初は週1回のペースで集えるか不安だったが、やっているうちに定着し、ご近所との繋がりが深まって良かった」との感想が多い。

担当職員からは、当初の申請書類が複雑だったので途中から簡素化したことや、また、今後の課題として、男性の参加が少ないこと（全体の約3分の1）や、代金を立て替えるのが大変という声が多いので改善を検討している旨の説明があった。

改善すべき課題もあるようだったが、アンケート調査から、この取り組みが健康の維持・改善に繋がっていると感じている参加者は9割を超えており、また、高松市の平成27年度介護保険新規認定者率は65歳以上（112,412人）4.21%、居場所利用者（4,591人）0.52%という状況から、平成28年度介護保険新規認定者率は65歳以上（114,411人）3.90%、居場所利用者（5,500人）1.15%と、居場所利用者の増加が高齢者の健康維持・改善に繋がっているように感じた。この数字の今後の推移に注視したい。

高齢化が年々進む現状にある今、大仙市でも“居場所”づくりの参考としたい。

【健康ポイント制度の取組について】

平成17年に1市2町が合併し誕生した丸亀市は、陸地部の他に島が5つあり、コミュニティを単位として17コミュニティで構成されており、市の健康増進計画を推進するに当たり、現在は城乾地区と城北地区の2つの地区で健康ポイント制度が導入されている状況。

同地区では調査の結果、各種検診の受診率が低く、住民の健康に関する意識が低いことが健康ポイント制導入のきっかけとなり、地域全体で健康意識の向上を図ることなどを目的としてスタートした。

結果、実施後の検診受診率が上昇したことや、保険部会の行事に参加する人が増え、健康を意識する人が増えてきたことから、一定の効果はあったようだ。

一方で、健康ポイント制利用者の伸び悩みや、地域への周知が十分でなく

	<p>知らない人が多いことなど課題もあることから、例えば1ポイントの獲得でも市のゴミ袋を贈呈するなど参加者を増やす努力を継続している状況で、平成30年度からは保険部会・福祉部会・文化部会とのポイント制を検討しているとのこと。</p> <p>類似した制度の導入は全国でも増加傾向にあり、その地域にフィットした方法を検討する必要があるが、丸亀市での導入の状況を参考に大仙市の状況を鑑みると、類似した制度の導入にあたっては市全体で取り組む方向で検討する必要があると感じた。その上で、各地域独自の行事参加等を加える方向で検討するのが望ましいと考える。</p> <p>いずれ高齢化が進んでおり、医療・介護に掛かる財政負担が年々膨らむ現状において、市民の寿命と健康寿命の差を縮める必要がある。市民の健康増進に資する取り組みの一つとして検討すべきものとする。</p> <p>【交流人口の増加に資する環境整備について】</p> <p>一年を通して多くの観光客が訪れる倉敷美観地区は、倉敷駅南口より歩いて約10分（約800m）のところの位置し、その東に位置する倉敷本町・東町境界は大部分が町並み保存地区に指定されているが、現在も約200世帯の人々が暮らしているとのこと。そんな家並に溶け込むように、ギャラリーや雑貨店、ジャズ喫茶、茶道家元を改築した喫茶店などが点在し、古い歴史文化の中に新しいセンスが絶妙に調和しており、訪れる人の心をなごませ、落ち着いて散策できる心地よい雰囲気があった。</p> <p>一方、デパートや商店街は倉敷駅南口周辺の徒歩5分圏内に集中しており、駅から美観地区にかけての通り沿いにある商店街には飲食店や商店が立ち並び、庶民的な味わいを醸し出していた。</p> <p>大仙市で今あるものを活かしながら、一年を通して観光客の増加に取り組むには、花火通り商店街周辺を落ち着いて散策できる雰囲気へと変えていくことと考える。まずは電柱を撤去し、電線を地下に埋め込むこと。次に町並みのランドデザイン。</p> <p>しかし、財政面でのハードルもかなり高いものになると想定されることと、また、特に旧町村に住む多くの市民には丁寧に説明をしながら理解を求めていく必要があることから、これを実現するには落ち着いてじっくりと議論を重ねる必要がある。当市の未来を想像すると、実現した暁に生まれる経済効果は、多くの大仙市民の生活を潤していくと考える。</p>
<p>そ の 他</p>	